

|        |  |
|--------|--|
| 目指す学校像 | SSH指定校として「自主・自律・創造」の校訓のもと、自ら育んだ高い「志」を実現し、次代を担い国際社会をリードする人材を育成する。 |
|--------|--|

|      |  |
|------|--|
| 重点目標 | 1 SSH指定校としての取組を起点に、全校生徒の「志」を育み、一人ひとりの第一志望の進路を実現する。<br>2 自ら課題を発見し、解決する主体的な学習態度を育てるとともに、授業の質を向上させ、社会のリーダーとなる確かな学力を身に付けさせる。<br>3 北高生としての品格を高め、健全な心身と豊かな人間性を育む。<br>4 地域の理数教育拠点校として活動すると同時に、グローバルな研究活動を展開して国際社会へ開かれた学校に発展させる。 |
|------|--|

|     |   |             |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上)  |
|     | B | 概ね達成(6割以上)  |
|     | C | 変化の兆し(4割以上) |
|     | D | 不十分(4割未満)   |

| 学校自己評価 |  |                          |  |  |           |     | 学校関係者評価     |                   |  |
|--------|--|--------------------------|--|--|-----------|-----|-------------|-------------------|--|
| 年度目標   |  |                          |  |  | 年度評価      |     | 実施日令和2年 月 日 |                   |  |
| 番号     | 現状と課題  | 評価項目                     | 具体的方策  | 方策の評価指標  | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校関係者からの意見・要望・評価等 |  |
| 1      | <現状><br>○SSH中間評価において本校の取組が評価され、評価校上位10校に選出された。また、福島復興探究学を新たに企画、実施するなど、特にフィールドワークの充実が図られた。<br>○SSCクラスを選択した生徒が大幅に増加した。(1クラス→3クラス)<br>○大学入試センター試験受験者のうち約4分の1の生徒が5教科受験するなど国立志向が高まり、現役、浪人を合わせ、2年連続で国立大学30名以上合格の実績を上げている。<br>○2021年度から導入される大学入学共通テスト及び英語成績提供システムの業務を開始した。<br><課題><br>○全校一体となったSSH2期目の指定に繋がる取組の実施<br>○SSCクラスの要である「数理探究」の充実<br>○生徒が明確な高い「志」を抱き、主体性を持って挑戦し学ぶ姿勢の育成と、それを実現できる環境整備   | SSH指定校としての取組の充実化         | ① 1学年については、全生徒を課題研究に意欲的に取り組ませる。<br>② 2学年については、理数科及び普通科SSCで発展的な課題研究に取り組ませる。<br>③ 3学年理数科については、2学年で研究に取り組んだ内容を論文にまとめ、英語で発表させる。<br>④ SSHの各行事に積極的に参加させる。  | ① 生徒の研究テーマの設定、研究の実施状況、発表の状況<br>② 生徒の研究テーマ、研究計画の立案実行、考察等の論理性<br>③ 論文の作成状況と英語ポスターセッションの実施状況<br>④ SSH各行事への参加数                 |           |     |             |                   |  |
|        |  | 高い「志」の育成と進路実現            | ① 個人面談及び進路希望調査を実施し、その情報を学年、進路指導部と共有して指導にあたる。<br>② 生徒の「志」を高めるため、各学年・教科・進路指導部による組織的・計画的なキャリア教育を実施する。<br>③ 教育支援ソフトや模試復習サイトを積極的に活用する。<br>④ 英語成績提供システムの「共通ID」発行等業務等、組織的かつ遺漏なく実施する。                      | ① 各学期の面談及び進路希望調査の実施回数<br>② 大学入試センター試験の得点600点以上取得生徒の割合<br>③ 模試の自己採点、学習自己管理の状況、生徒の学習動画視聴時間<br>④ 2学年全員の「共通ID」の登録              |           |     |             |                   |  |
| 2      | <現状><br>○全HR教室をホワイトボード化し、電子黒板機能付きプロジェクトに対応する環境が整備されている。<br>○授業アンケートを実施し、その結果を教員へフィードバックし組織的な授業改善に努めている。<br>○1年生「数理探究」は2単位で課題研究のポスターセッションを全員が実施した。OST、GTECの実施が組織化され、運営面での充実が図られている。<br>○ICTを活用した研究授業を市教研の一環として実施するなど、全校としての取組が実現できている。<br><課題><br>○ICT機器を活用した主体的対話的で深い学びの実践の蓄積と生徒の知的好奇心を満足させる教材の研究と開発<br>○授業アンケート、保護者アンケートの引き続きの実施と、そのフィードバックを踏まえた継続的な授業改善<br>○「数理探究」の一層の充実化と、自ら課題解決に取り組む学習姿勢の更なる育成<br>○英語4技能向上を目指した効果的なOST、GTECの実施 | 生徒の学力向上に向けた全校で取り組む授業力の向上 | ① 1、2学年の「数理探究」において、生徒が主体的に学習課題を見つけて論理的に分析し、計画的な課題解決力を身につけさせる。<br>② ICT機器をフル活用し、授業支援ソフト等の教員の活用頻度を高めるとともにアクティブラーニングの実践を推進する。<br>③ 授業アンケート、保護者アンケートを実施し、教員の授業改善に資する。<br>④ 英語4技能向上に関する取組を学校全体で推進していく。  | ① 数理探究の課題研究における仮説の論理性と具体性のある研究計画、班内分担や共同作業の円滑性<br>② 授業支援ソフトの活用の割合<br>③ アンケート結果を踏まえた授業改善に係る自己評価<br>④ OST、GTECの組織的・協力的な取組の状況 |           |     |             |                   |  |
| 3      | <現状><br>○「自主」「自律」「創造」の校訓のもと多くの生徒は落ち着いた高校生活を送っている。<br>○自転車通学の登下校のマナーに関して、地域の方からの苦情が寄せられる。<br>○教育相談体制の充実を図る。生徒、保護者と職員、2名のスクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーとの連携が組織的に機能している。<br><課題><br>○生徒が学校生活の中で主体的に判断し行動できる活動の促進<br>○生徒事故件数のゼロ件維持と通学のマナーに対する苦情件数減少<br>○職員の防犯、安全意識の更なる向上<br>○教育相談に係る指導の外部機関との一層の連携  | 安心、安全な高校生活               | ① 風紀委員を活用し、生徒自らが安心安全な高校生活を送ることのできる環境づくりを推進する。<br>② 交通安全教室を効果的に実施し、生徒のマナーと安全意識を向上させる。<br>③ 問題発生時の適格かつ迅速な対応に係る教職員の意識を向上させる。  | ① 風紀委員、職員による活動の年間の実施状況<br>② 事故件数の推移と苦情件数<br>③ 事故防止、防犯に係る情報提供   |           |     |             |                   |  |
|        |  | 教育相談との連携                 | ① 教育相談・特別支援委員会を定期的 to 実施し、スクールカウンセラー、特別支援コーディネーター、スクールソーシャルワーカー、教職員間で情報交換を密にする。  | ① 教育相談の各学期の実施状況と、関係者間の情報共有   |           |     |             |                   |  |
| 4      | <現状><br>○小学生向け「自由研究サポートプログラム」、中学生向け「先進的科学研究プログラム：ASEP, Jr. Hi」は、いずれも好評を得ている。<br>○大学との連携を拡大した。新規に東京農工大、芝浦工大との連携を開始する。<br>○SS科学英語実践講座に普通科から多数の生徒が参加し、参加生徒の英語運用能力を高めることができた。<br>○SSHオーストラリアサイエンス研修、台湾サイエンス研修に加え、修学旅行における国立シンガポール大学とのサイエンス研修を計画している。<br><課題><br>○アウトリーチプログラム等の効果的な発信と地域への周知<br>○海外サイエンス研修における事前事後学習及び現地での共同研究の充実化<br>○生徒募集を意識した魅力あるプログラム開発と情報発信  | さいたま市内の理数教育の拠点校としての役割    | ① 「自由研究サポートプログラム」の内容及び宣伝をより充実させていく。<br>② ASEP Jr. Hi について内容を改善し、中学生の科学に対する興味関心を引き出していく。<br>③ 地域のニーズを踏まえたアウトリーチプログラムを展開していく。  | ①②③ 種々アウトリーチプログラムの内容及び参加者の満足度  |           |     |             |                   |  |
|        |  | タフなグローバル人材の育成            | ① グローバルサイエンスプログラムに対応できるように、SS科学英語実践講座の充実に引き続き取り組んでいく。<br>② サイエンス研修の事前学習を充実させ、現地の活動を深化させるとともに、現地環境に接触させる時間を増やし、異文化理解を深めさせる。<br>③ シンガポールへの修学旅行において、サイエンス研修を実施する。<br>④ 大学との連携を充実させることで、主体的な研究意欲を育成する。 | ① SS科学英語実践講座の実施内容、参加生徒数及び参加生徒の満足度<br>② 現地の高校生との事前のやり取り及び共同研究の実施内容<br>③ シンガポールへの修学旅行におけるサイエンス研修の実施内容<br>④ 大学との連携プログラムへの参加状況 |           |     |             |                   |  |